

### ●2007年度のレビュー

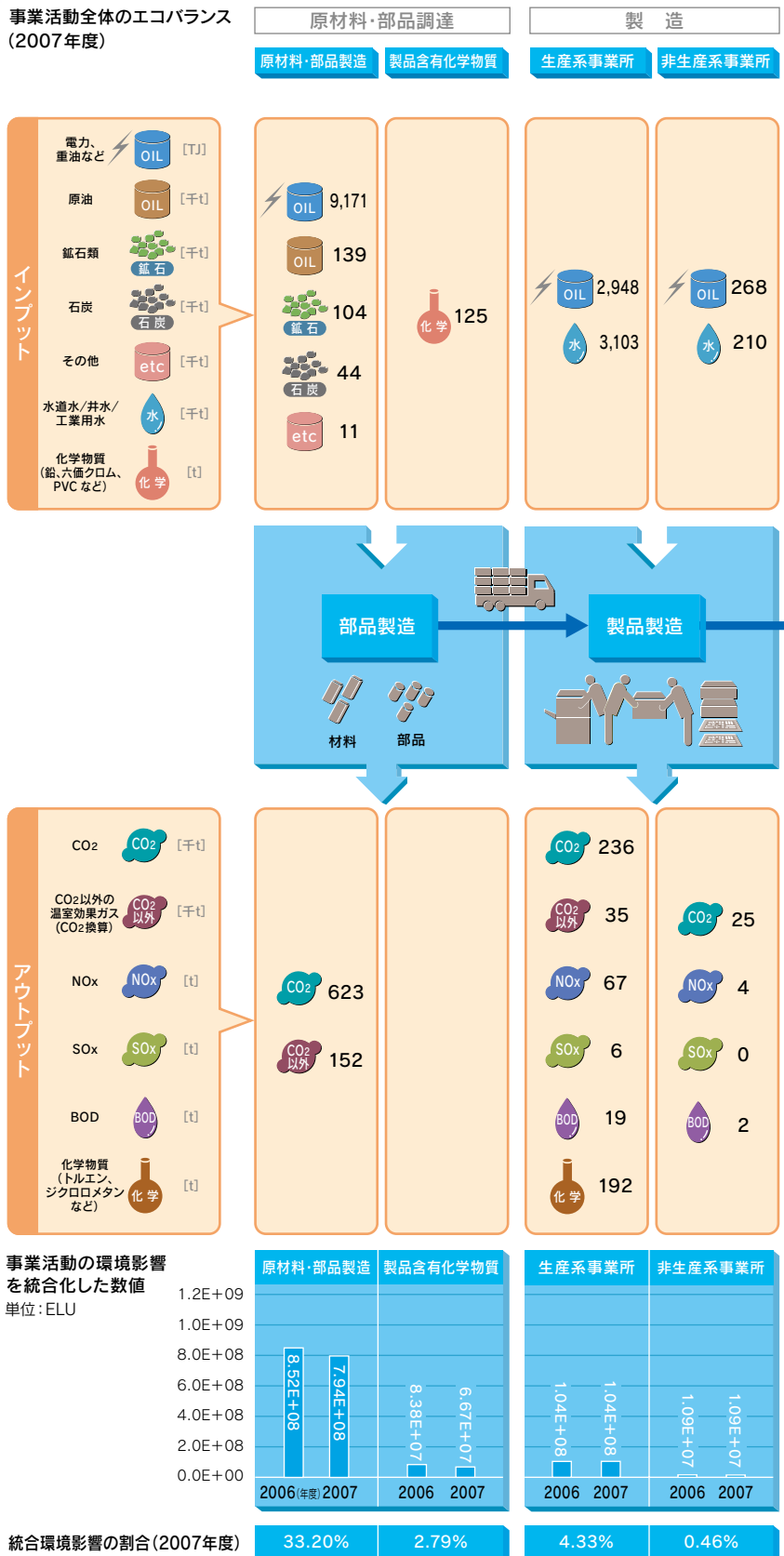
リコーグループの売上は、前年度比7.3%の増加でしたが、企業活動に関わる統合環境影響は前年度と比較してほぼ横ばいという結果になりました。評価対象範囲は昨年と同様であり、グループの事業全体に対する環境負荷の捕捉率は92.45%(売上高基準)です。環境影響の大きな事業工程は、原材料・部品調達とお客様の製品使用時(電力・紙)となります。前年度と比較すると、原材料・部品調達については、画像機器製品をはじめ、業績の好調な事業の環境影響が増加しましたが、計量機器(ガスメーター・水道メーターなど)の資源投入量の減少等でトータルでは減少しています。お客様の製品使用にともなう環境影響については、電力・紙消費ともに環境影響が増加しています。電力消費については省エネ技術による削減が販売台数の増加に追いつけなかったという構造になっています。

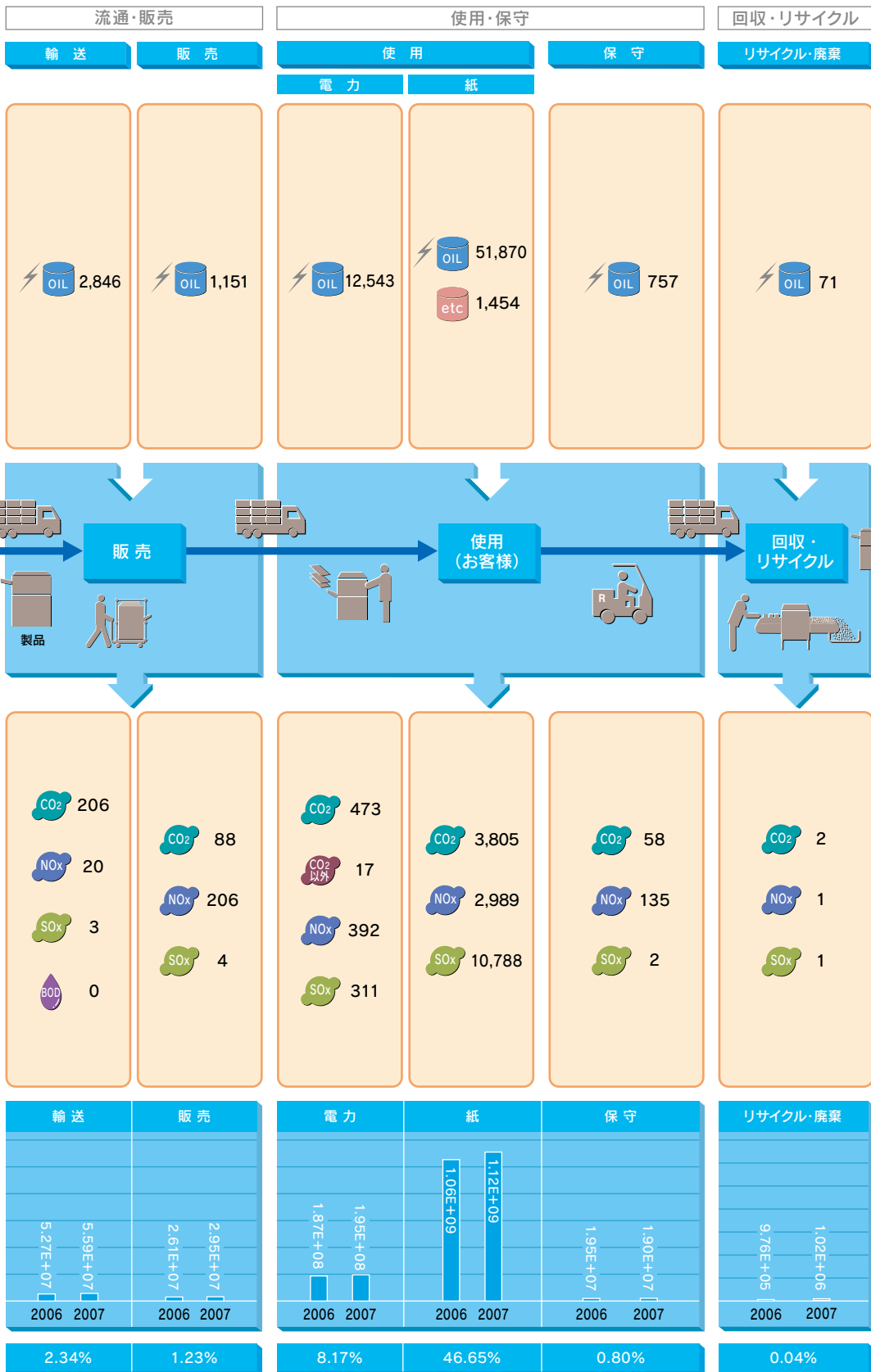
※ 昨年版報告書のエコバランスでは、先進国向け事業分の数値を記載しましたが、今回は従来通り事業活動全体の数値に戻しました。このため2006年度の数値は環境経営報告書2007に記載されたものとは異なっています。

#### 環境負荷の捕捉率について

2007年度のリコーグループの統合環境影響の捕捉率は事業全体の92.45%です。この捕捉率は、連結売上高における事業別の売上高を基準に算出したものです(仕入事業を除く)。M&Aなどで新たに取得した事業5.87%分(リコープリンティングシステムズ、山梨電子工業、インフォプリント・ソリューションズ)については、順次把握を進め、エコバランスに反映させていきます。

事業活動全体のエコバランス (2007年度)





[E+n]は「×10<sup>n</sup>」を意味します。例) 1.45E+08=1.45×10<sup>8</sup>